.... *R. purshiana*, Cascara-sagrada
3. Medullary rays composed of 1-2 cells in width. ....*R. crenata*
2. Stone cells present scarcely in cortex. .... *R. frangula*, Frangula

---

○コバナツルウリクサについて（山崎　敬） Takasi YAMAZAKI: On *Torenia glabra* Osbeck.

コバナツルウリクサはゲンジバナともよばれ，九州の大隅半島と薩摩半島にのみ分布するハナウリクサ属の野生種である。下側雄蕊の基部に線形の付属体があるので，よく栽培されているハナウリクサとはかなり系統が異る。

初め日本特産種として大井次三郎氏により新種とされた。私が日本周辺のこの属をまとめた時（本誌 **30**: 362. 1955)，中国からインドシナに分布する *T. glabra* によく似ていることを知ったが，大陸の資料が不充分なので変異の幅がわからず，同一種とすることはひかえておいた。その後北村四郎氏は両者を合一してあつかっているが，充分な資料の上で検討されたものとは思われない。

最近インドシナ，ヒマラヤの標本がふえ，またパリー自然史博物館からベトナムの標本が借りられたので，両者の関係をかなり明らかにすることができた。私の先の報告では，葉の形，花弁の大きさなどに違いがあるように書いたが，これらの性質は種内の変異の範囲内で，両者は同一種としてよいと思う。また，今までヒマラヤのものと中国のものを比較した報告はなかったが，ヒマラヤに産する *T. diffusa* D. Don と比較すると，両者の間にも区別がつけられない。インド東部のこの属を整理した N. M. Dutta は，*T. glabra* にはふれていないが，*T. diffusa* が中国，インドシナにまで分布するとしている。結局，コバナツルウリクサはヒマラヤから中国，インドシナに広く分布し，九州南部に飛んでいることになる。学名としては *T. glabra* が早い。

Torenia glabra Osbeck, Dagbok. Ostind. Resa: 210. 1757 not seen; Merrill in Amer. J. Bot. **3**: 589, 1916, excl. syn.; Yamazaki in Journ. Jap. Bot. **30**: 362. 1955, excl. syn.; Acad. Sin., Icon. Corm. Sinic. **4**: 27, t. 5468. 1972.——*Torenia diffusa* D. Don, Prod. Fl. Nepal.: 86. 1825; Benth. in DC. Prodr. **10**: 410. 1846; Dutta in Bull. Bot. Soc. Beng. **19**: 26. 1965, syn. nov.——*Torenia kiusiana* Ohwi in Fedde, Rep. Spec. Nov. Veget. **36**: 55. 1934; Yamazaki in Journ. Jap. Bot. **30**: 362. 1955 syn. nov.

Distr. Kyushu (Ohsumi, Satsuma). China (Kiangsi, Fuchien, Kwangtung, Kwangsi, Yunnan), Vietnam (Tonkin, Annam), Assam, Bengal, Sikkim, Nepal.

（東京大学理学部付属植物園）